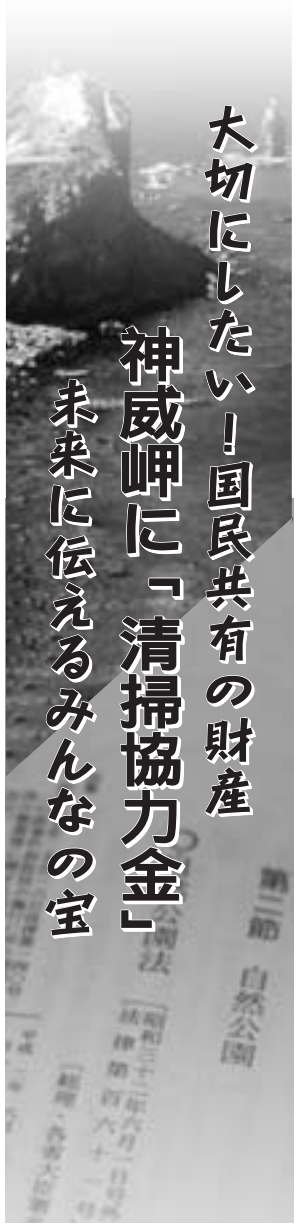


# 大切にしたい！国民共有の財産

## 神威岬に「清掃協力金」

### 未来に伝えるみんなの宝



#### 「清掃協力金」

#### 呼びかける看板設置

町内産業団体などでつくる積丹町自然環境保全協議会（会長 佐藤勝次 観光協会会長）は7月17日、神威岬に自然環境保全協力を呼びかける看板と募金箱を遊歩道の入口に設置しました。

同協議会は、積丹町の豊かな自然環境の保全や行楽客への快適な利用のための対策・促進を図ることを目的に5月31日に発

足。構成団体には観光振興について町内的な合意形成を図りながら取り組みを進めていきたいとの考えから、観光協会や商工会等の観光関係団体のほか漁協、農協の各産業団体長や町な

ら関係機関も顧問として参画しています。今回の看板は、同協議会の事業の一つとして、手始めに北海道遺産に選定されている神威岬に設置することを決定したものです。

国定公園として昭和38年7月に指定されています。国定公園とは、自然公園法に規定されている日本の中で傑出した自然の風景地を指定している国立公園に準ずる優れた自然の風景地で環境大臣が指定するもので、その管理は都道府県が行うこととなっており、全国で55箇所、北海道内で5箇所が指定されています。

国定公園は

「国民共有の財産」

積丹町の海岸線は

「二七〇積丹小樽海岸

「観光振興」と「費用負担」

国定公園が国民共有の財産としなが

しながらも、維持管理に係る所



積丹町自然環境保全協議会会長

佐藤 勝次さん

「質の高い観光地の受け入れ体制の整備の一環として、環境保全協力金制度を導入することで、町に訪れる多くの行楽客と一緒に自然環境の美化と保全に努めていきたい。この取り組みは神威岬だけでなく積丹岬や黄金岬などへも広げていきたいと考えています。」

いわば国の指定を受けた「国民共有の大切な財産」と言えます。

町ではその優れた自然環境を多くの人に眺め楽しんでいただくことと駐車場や遊歩道の整備、美化清掃などを行い、安全できれいな環境の保全に努めてきました。

在り市町村の財政負担は極めて大きな割合を占めている一方で、国の費用負担制度は十分とは言えません。特に「ごみ対策費（清掃対策）」に係る地元負担は、観光振興との板ばさみになっていきます。

今回町では、現行の法制度の難しさを乗り越えて、12年目にして北海道などとの協議の歴史を経て、ようやく「清掃協力金」の導入実現にこぎつけました。

この取り組みが国民共有の貴重な財産を、地元自治体に任せるのでなく、国民等しく次世代へ良好な財産・自然資源として引き継ぐことをめざす対策の第

一步となることが期待されます。

そのために同協議会を中心に、所在市町村としてあるべき姿を外に向かって発信し、国民全体の理解と支援をいただきながら、この貴重な財産を国民みんなで守ること、また自然に対するマナーだけではなく、ごみなどを含めた一般的なマナー、基本的なルールをしっかりと守ることが求められています。なお、集まった清掃協力金は環境保全のための啓発や清掃施設の補修にあてられることになっていきます。

## 2年連続全道優勝の快挙!

# 北後志消防組合積丹支署 全道消防救助技術訓練指導会優勝

7月12日、札幌市で行われた第36回全道消防救助技術訓練指導会で、北後志消防組合積丹支署が昨年に引き続き優勝、見事2連覇を達成し、全国大会への出場権を手に入れました。

同支署は、7種ある訓練種目の中から、昨年と同じ引揚救助の部に出場、この種目は5人が一組となり7m塔上のスタート地点から2人が空気呼吸器を着装して塔下、救助を待つ者を2

人で救出し、他の2人と協力して塔上へ引揚げ救助及び脱出するまでの安全確実性と所要時間を競うもので、ミスを少なく、それぞれの呼吸とチームワークが必要とされるものです。

この種目には、同支署のほか北見市、函館市、留萌市の計4チームが出場、いずれも救助技術が高い都市部の消防との勝負となりました。

同支署からは昨年の優勝メン



バーである笠嶋雄一隊員、笹山副隊員、入間川大幸隊員、嶋田伊佐央隊員、東倫考隊員の5人が出場しましたが、連覇のプレッシャーがかかる中、5人は負うことなく、それぞれが普段の訓練どおりの力を存分に発揮し、一つのミスもない最速タイムでの優勝となりました。

隊長の笠嶋隊員は、まわりは規模の大きな消防なため連覇は意識せず、普段通り訓練の成果を出すことだけを考えました。優勝という結果には技術に消防の規模の大小は関係ないということの証明であり、良い自信になりました。」と話してくれました。

同支署は、8月22日から東京都で行われる全国大会に北海道代表として出場します。

「各地の予選を勝ち抜いた強者が全国から集まりますが、ミスをしないことを目標に持ち前のチームワークにいつもどおりの気持ちで臨みたい。」と話す笠嶋隊長。

全国大会での更なる活躍が期待されます。

## 第62回国民体育大会卓球北海道大会

# 石田真子さん 成田実紀さん 高校生を相手に善戦

7月7日・8日、札幌市で第62回国民体育大会卓球競技北海道大会が行われ、美国中学校から2人が出場しました。

ることとなりましたが、やはり体格や経験の差は大きく、善戦したものの惜しくも一回戦敗退となりました。

北海道大会に出場したのは、石田真子さんと成田実紀さん（ともに美国中3年）の2人で、5月27日に倶知安町で行われた後志予選会を勝ち上がって北海道大会の出場切符を手にしたものです。2人の少年女子の部には全道各地から総勢237人が出場、またこの部門は中学3年生の出場が可能となっており、各地区予選を勝ち抜いた43人の中学生が高校生と同じ舞台上立って戦うこととなりました。

しかし、高校生との対戦にレベルが高くもつと練習をしなればと思い知りました。良い経験となりました。」と話してくれました。

また、7月16日に余市町で行われた後志卓球カデット大会で、西川凌平くん、原悠くん、三上智春さんが上位入賞し、北海道大会出場が決定しております。

活躍を続ける皆さんの今後の更なる活躍が期待されます。



成田 実紀さん  
「どんどん強い人と対戦して技術を向上させたい。」



石田 真子さん  
「年々技術の向上を感じる。もっと鍛えてうまくなりたい。」